

⑳ 日野川でコウノトリも暮らす湿地を創出しています

受賞機関 国土交通省 近畿地方整備局
福井河川国道事務所

キーワード 治水対策と湿地創出の両立、ICT施工

全建賞審査委員会の評価ポイント

自治体によるコウノトリの繁殖・飼育・放鳥や、コウノトリの餌場の創出等の「生態系ネットワーク」の取組みが行われているなかで、河川管理者として治水対策と湿地創出を両立させた日野川水防災湿地創出事業。湿地創出を考慮した掘削方法やICTなど最新の技術も駆使した湿地環境の整備が行われている点や、鳥類が多く確認されるなど効果を発現している点が評価された。

1. はじめに

九頭竜川水系日野川流域においては、コウノトリの繁殖・飼育・放鳥やコウノトリの採餌場の創出等の取組みが行われている。こうした地域の取組みに連動しながら、河道内の河川環境とその周辺地域とが一体となって自然再生の推進を図ることを目的とする「福井県流域環境ネットワーク協議会」を設立し、コウノトリの定着を支援する河道改修（湿地創出）を推進している。

2. 事業の概要

1) 河道掘削の概要

日野川直轄管理区間上流部は、流下能力が不足していることから、約3.6kmにわたり河道掘削を実施する。従来の河道掘削形状は、低水路を拡幅するものであったが、コウノトリの採餌条件やコウノトリの餌となる生物の生息条件を踏まえ、下記の掘削形状を設定し、片粕地区において試行的に湿地創出に向けた河道掘削を実施した。

- ①湿地の確保日数が最大となる高さで高水敷きを切り下げて平場を設ける。
- ②湿地内に水が溜まるように河岸の一部分を掘り残し小堤を設ける。
- ③干上がった場合でも水が残るように、小堤沿いや平場に深場を設ける。
- ④小堤決壊時の代替地、植生の侵入防止のため、高水敷側にも深場を設ける。

2) 施工の概要

湿地創出に向けた河道掘削形状は複雑な線形を持つ深場や池などがあり、通常、施工図の作成が難しいが、平面図CADデータから深場や池の平面位置関係を読み取り、掘削勾配と深さを与えることで施工に必要な三次元データを作成した。

作成された三次元データをバックホウ機械に入力し、オペレーターがガイダンスを確認しつつ施工することで、

複雑な線形を持つ深場や池などの施工が可能となった。



完成した片粕地区の湿地の様子

3. 事業の成果

河道掘削工事後の水温・水深や動植物を調査し、湿地創出に伴う環境の変化を把握するために物理環境調査と生物調査を実施している。

この内、魚類調査では、本川で確認されている魚種と同等の種類が湿地内で確認されている。また、鳥類についても、平成30年5月25日から9月14日までの期間で、湿地へのサギ類の飛来数が1,241羽あり、平成30年11月5日にはコウノトリらしき大型の鳥類も湿地内で確認されている。



コウノトリらしき大型鳥類

4. おわりに

今後も日野川では継続的に河道掘削を実施していくが、今回実施した片粕地区の湿地を踏まえ、上流部の河道掘削にも反映していきたい。

賛助会員 (株)建設技術研究所、(株)道端組、八千代エンジニアリング(株)